

ワーク Aさんと母親の生活と住むまちを考える

1 ケース概要

若年性認知症総合支援センターの相談員より、若年性認知症の方とその母親の事で相談を受けた。本人（Aさん 50歳男性）と母親（77歳）の2人暮らし、父親は2年前に他界。Aさんは、大手企業で働いていたが、半年前に若年性認知症の診断を受け、現在は休職中で傷病手当金をもらっているが、今後の就労に関しては未定である。生活面に関して以前は、写真を撮ることや、パソコン作業、農作業、料理、喫茶店に行く事も好きであったが、今は出かけておらず、外出の機会が減ってしまい、趣味だった農作業や料理もしておらず、たまにパソコンを利用する程度である。

母親は穏やかな性格で、社交的。以前は週に1回自宅で歌の講師を呼び、近所の友人と歌のサークル活動をするのを楽しみにしていたが、自宅で転倒し腕を骨折。それ以降、お茶やお菓子の準備ができなくなりサークル活動を休止。Aさんが病気を発症してからは自宅に引きこもるようになり、認知症も出始めています。医師からは、趣味活動や運動をした方が良いと言われています。部屋の掃除やゴミ出しも大変になっており、近隣住民も心配しています。食事に関しては、以前は母親が料理を作り、休日はAさんも手伝う事が多かったが、腕を骨折してからは、母親はコンビニやスーパーで総菜等を買ひ、Aさんはネットスーパーでカップラーメン等を購入する事が多く、一緒にご飯を食べる事も減ってしまいました。若年性認知症総合支援センターの相談員からは、Aさんの日中の過ごし方や母親の生活面での支援や余暇活動について、何か情報がないか相談がありました。

2 家族構成

Aさん 50歳 男性 若年性認知症 大手企業に勤めていたが、休職中。

写真を撮ること、パソコン作業、農作業、料理、喫茶店に行く事も好き。

経済状況 傷病手当金のみ

母親 77歳 穏やかな性格・社交的であったが、腕を骨折後引きこもりがち、認知症も出始めています。

歌やペーパークラフトを作るのが趣味（昔は近所の子どもたちにあげていた）

経済状況 遺族年金のみ

父親 2年前に他界

3 お住まいの地域

- ・K ニュータウンの中のとある台という地区で、JR K 駅からはニュータウンの中では一番遠くに位置している。
- ・ほとんどは戸建て住宅で、坂道が多く、高齢者にとっては、徒歩での買い物や通院、公民館等に行くのも大変である。
- ・高齢化率が高い地域であり、住民同士の助け合い活動が活発な地域である。
- ・子どもの数が少なくお祭りやイベントも減少傾向にある。